

福岡教育大学データサイエンス・AI科目パッケージ

令和6年度 自己点検・評価報告書

1 趣旨

「福岡教育大学データサイエンス・AI科目パッケージ」は、データと社会との関係性を学び、データを読み解き、扱うための基礎的な能力やAIを利活用する際の基本的なスキルを身につけることを目的に、これを文理問わず全ての学部学生が受講可能な形で開講している。修了要件は、「データリテラシーⅠ」及び「データリテラシーⅡ」の2科目4単位を修得することである。

本自己点検・評価報告書は、令和6年度の実施状況について、自己点検・評価の結果をとりまとめたものである。

2 自己点検・評価の視点

以下の観点にて自己点検・評価を実施した。

(1) 学内からの視点

- ① プログラムの履修・修得状況
- ② 学修成果、学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度
- ③ 後輩等への推奨度
- ④ 履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

(2) 学外からの視点

- ① 修了者の進路先、活躍状況、企業等の評価
- ② 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

(3) その他

- ① 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること
- ② 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

3 自己点検・評価の結果

(1) 学内からの視点

- ① プログラムの履修・修得状況

全学的に運用されている学生ポータルシステムのデータをもとに、受講者の履修・修了状況を確認している。令和6年度に新たに開講した本教育プログラムの履修生は、それぞれ「データリテラシーⅠ」42名と「データリテラシーⅡ」24名であった。開講初年度のため学生への周知期間が短かったこともあり、本学の収容定員が2,460名に対して、履修率は2.68%であった。

令和7年度に向けては、前期と後期の両方複数学期に開講した上で、それぞれの履修しやすい時間枠に設定し、できるだけ多くの学生が履修できるようにした。今後、本教育プログラムを周知するなどして履修を促す取組を行う。

② 学修成果、学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

構成する授業科目について、実施している「授業評価アンケート」における設問項目のうち、「この授業はあなたの関心・意欲を高めるものでしたか。」や「この授業の内容を十分に理解・修得できましたか。」に関して、学生が「そう思う」「ややそう思う」と回答した割合は、以下のとおりであった。

- ・「この授業はあなたの関心・意欲を高めるものでしたか。」
データリテラシーⅠ 86.9%
データリテラシーⅡ 75.0%
- ・「この授業の内容を十分に理解・修得できましたか。」
データリテラシーⅠ 69.5%
データリテラシーⅡ 62.5%

③ 後輩等への推奨度

構成する授業科目について、実施している「授業評価アンケート」における設問項目のうち、「この授業に主体的に取り組むことができましたか。」「この授業はあなたの関心・意欲を高めるものでしたか。」や「この授業の内容を十分に理解・修得できましたか。」に関して、学生が「そう思う」「ややそう思う」と回答した割合は、以下のとおりであった。

- ・「この授業の内容は教員をめざす上で有意義でしたか。」
データリテラシーⅠ 91.3%
データリテラシーⅡ 68.7%
- ・「総合的に判断して、この授業に満足しましたか。」
データリテラシーⅠ 91.3%
データリテラシーⅡ 87.5%

④ 履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

履修者数増に向け、HP や学生ポータルシステム等による学生への周知などの取組を行ったが、令和6年度は開講初年度ということもあり「データリテラシーⅠ」42名と「データリテラシーⅡ」24名にとどまった。令和7年度に向けては、前期と後期の両方複数学期に開講した上で、それぞれの履修しやすい時

間枠に設定し、できるだけ多くの学生が履修できるようにする。また、今後、本教育プログラムを周知するなどして履修を促す取組を行う。

(2) 学外からの視点

① 修了者の進路先、活躍状況、企業等の評価

本教育プログラムは、令和6年度から開始されたプログラムであり、今回「数理・データサイエンス・AI教育リテラシープログラム（リテラシーレベル）」の認定を受けた場合、早くて、令和7年度末に修了者が出る予定である。このため、修了者に係る学外からの評価については今後得ることとなるが、これらの評価は、卒業生や学校長アンケートにおいて、関連する設問項目を通じて得ることを予定している。

② 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

教員養成大学においては、教育委員会や学校教育現場との連携が特に重要であるため、これらの意見や動向を踏まえて、適切に本教育プログラムの改善を行っていく。

(3) その他

① 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

構成する授業科目について、実施している「授業評価アンケート」における設問項目のうち、「この授業に主体的に取り組むことができましたか。」に関して、学生が「そう思う」「ややそう思う」と回答した割合は、以下のとおりであった。

・「この授業に主体的に取り組むことができましたか。」

データリテラシーⅠ 86.9%

データリテラシーⅡ 81.2%

② 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

内容・水準を維持・向上しつつ「分かりやすい」授業とするために、成績状況や授業評価アンケート、実社会や学校現場等における現状や動向を踏まえて、適宜、内容や実施方法の見直しを検討している。

以上